

平成 29 年度「逗子市学習状況調査」の分析結果（小学校）

○はじめに

平成 29 年 4 月 18 日に「逗子市学習状況調査」が行われました。この調査は、逗子市の児童の学習状況を把握・分析し、各学校の指導方法の工夫・改善および児童の学習に役立て、市として必要な施策の策定に資するために行われたものです。実施内容は、市内小学校 5 年生を対象とし、国語、社会、算数、理科の 4 教科で、神奈川県調査問題をもとに行われました。この分析結果を踏まえ、各学校において今後の指導方法の工夫と改善を図り、本市において教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るよう努めたいと思います。

なお、ここでいう学力とはこの調査で測ることができた学力の一部であり、子どもたちの持つ学力全てを示すものではありません。

○実施状況

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| (1) 調査実施日 | 平成 29 年 4 月 18 日（火） |
| (2) 実施教科 | 教科に関する調査（国語、社会、算数、理科） |
| (3) 実施学校・学年・調査数 | 逗子市立小学校 5 年生 455 名 |

○各教科の調査結果（正答率）

各教科の調査結果について以下に示す。正答率では、社会が最も高く 78.7%という数値を示している。国語、算数では、それぞれ 77.6%、76.3%となっており、理科については 66.4%と最も低い数値となっている。

表 各教科の調査結果（正答率）

教科	調査児童数	平均正答率
国語	455 名	77.6%
社会	455 名	78.7%
算数	455 名	76.3%
理科	455 名	66.4%

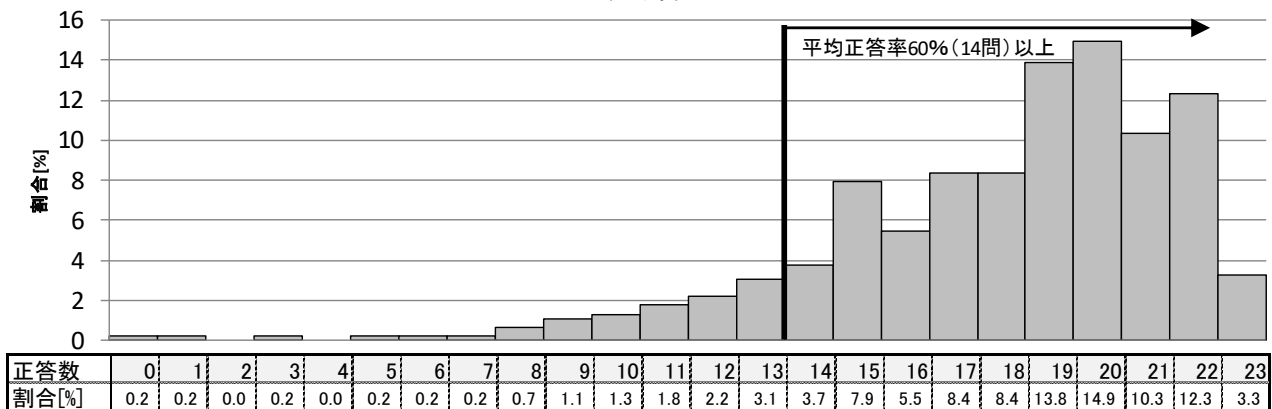
・ 国語

調査児童数	455人
平均正答数	17.8問 / 23問
平均正答率	77.6%
中央値	19問
最頻値	20問

全体的な結果について

- ・国語は、調査児童数 455 人にて実施をした。その結果、平均正答数 17.8 問、平均正答率が 77.6%、平均正答率が 60%以上の児童は全体の 8 割以上を占めている。
- ・正答率分布をみると、全体的に右寄りの山形となっていることから、児童に学習内容がおおむね定着していると考えられる。

正答率分布



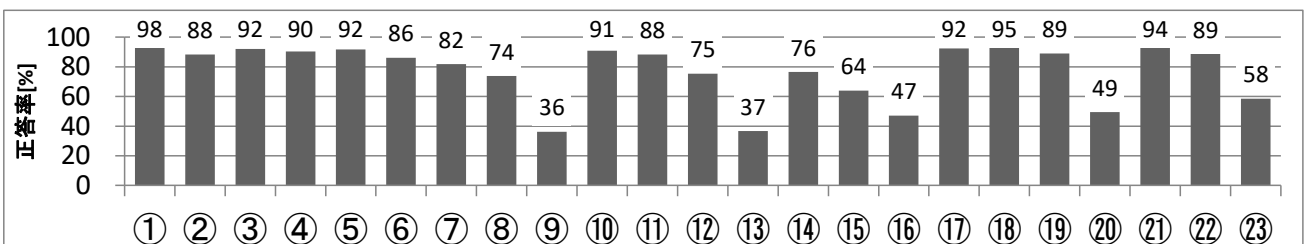
正答率が 80%以上の設問

- ・問一（1）漢字の読みは全体的に平均正答率が 8 割を超えており、良好な結果となっている。
- ・問一（4）漢字の部首についても、平均正答率が 8～9 割と良好な結果となっている。

正答率が 40%未満の設問

- ・問一（3）ことわざ・故事成語は平均正答率が 36.3%となっており、多くの児童が苦手としていくことがわかる。

各設問における平均正答率



対 応 グ ラ フ 番 号	問題番号	問題の内容	評価の観点			設問毎 正答率 [%]
			書く 能力	読む 能力	言語につ いての知 識・理解・ 技能	
①	(1)	漢字の読み	(ア)		○	98.0
			(イ)		○	88.4
			(ウ)		○	92.1
			(エ)		○	90.3
			(オ)		○	91.6
②	(2)	漢字の書き	(イ)		○	86.2
			(ウ)		○	81.8
			(エ)		○	73.8
			(オ)		○	36.3
④	(4)	漢字の部首	(ア)		○	90.8
			(イ)		○	88.4

対 応 グ ラ フ 番 号	問題番号	問題の内容	評価の観点			設問毎 正答率 [%]
			書く 能力	読む 能力	言語につ いての知 識・理解・ 技能	
⑫	(5)	ローマ字の読み・書き	(ア)			75.4
			(イ)		○	36.7
			(ウ)		○	76.5
			(エ)		○	64.0
			(オ)		○	47.0
⑰	(6)	作品に対する適切な助言	(1)		○	92.3
			(2)		○	94.9
			(3)		○	89.0
			(4)		○	49.5
⑳	(1)	効果的な図表の選択	A		○	93.8
			B		○	88.6
			(2)		○	58.5

観点別にみた正答率

観点	設問数	平均正答率	
書く能力	3問	80.2%	80.2
読む能力	4問	81.4%	81.4
言語についての知識・理解・技能	16問	76.1%	76.1

・観点別の平均正答率については、「書く能力」(3設問)が80.2%、「読む能力」(4設問)が81.4%、「言語についての知識・理解・技能」(16設問)が76.1%と概ね良好な結果となっている。

・「読む能力」の各設問について平均正答率を見ると、『登場人物の行動や心情の把握』が8割以上と高い正答率となっている(問二(1)～(3))。一方、『登場人物の心情の変化の把握』についての正答率は49.5%となっており、

叙述を基に登場人物の気持ちについて地の文や会話などから関連付けてとらえていく問題を苦手とする児童が多いことがわかる(問二(4))。

・「言語についての知識・理解・技能」については、『漢字の読み』が88.4%以上とそれぞれ高い正答率となっている(問一(1))。一方、『ローマ字の読み・書き』では正答率が36.7%となっており(問一(5)(イ))、ローマ字を書くことを苦手としている児童が多いことがわかる。

観点別にみた指導の工夫・改善

書く能力について	○授業の場面では、文章を書くときには中心となる内容を決めて、関連する資料を、適切に用いることが必要です。さらに、伝えたい相手や目的に応じて、図やグラフなどの資料を用いて、効果的な表現ができるよう指導することが大切です。(問三)
読む能力について	○授業では、物語を読み、登場人物の気持ちの移り変わりを、叙述を基にとらえ、音読を工夫したり、表や図に表すなどして話し合ったりする学習活動等が考えられます。(問二(4))
言語についての知識・理解・技能について	○地名や人名などの固有名詞を含めた簡単な単語について、日常からローマ字で表記されたものを読んだり、書いたりする習慣を身に付けるようにすることが大切です。(問一(5))

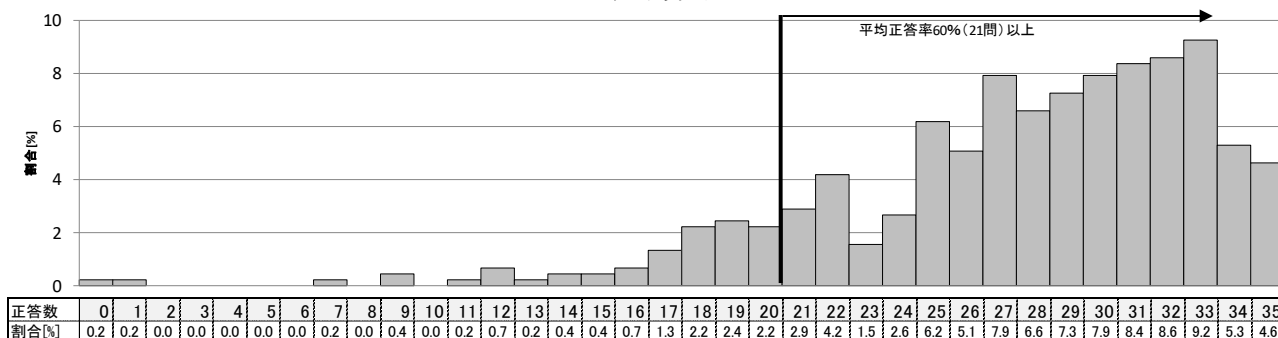
・ 社会

調査児童数	455人
平均正答数	27.5問 /35問
平均正答率	78.7%
中央値	29問
最頻値	33問

全体的な結果について

- ・ 社会は、調査児童数 455 人にて実施をした。その結果、平均正答数 27.5 問、平均正答率が 78.7%、平均正答率が 60%以上の児童は全体の 8 割以上を占めている。
- ・ 正答率分布をみると、全体的に右寄りの山形となっていることから、児童に学習内容がおおむね定着していると考えられる。

正答率分布



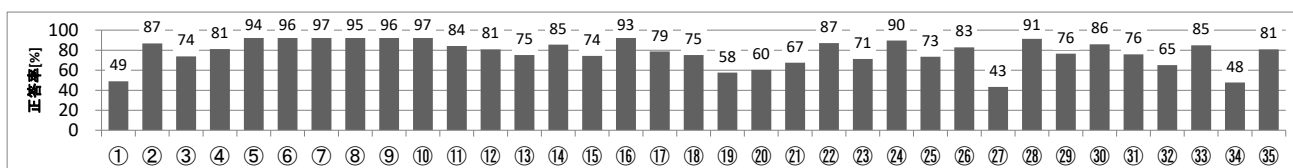
正答率が 80%以上の設問

- ・ 問二（1）地域の人々の生産や販売は全体的に平均正答率が 9 割を超えており、良好な結果となっている。
- ・ 問三（1）飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理についても平均正答率は 7～8 割と高く、全体的に良好な結果となっている。

正答率が 45%未満の設問

- ・ 問六 災害及び事故の防止は正答率が 43%となっており、苦手としている児童がいることがわかる。

各設問における平均正答率



対 応 グ ラ フ 番 号	問 題 番 号	問 題 の 内 容	評 価 の 観 点		設 問 毎 正 答 率 [%]
			社 会 的 な 思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	観 察 ・ 資 料 活 用 の 技 能	
①	(1)	方位・主な地図記号		○	49.0
	(2)			○	86.8
	(3)		○		73.8
	(4)		○		81.1
	(5)		○		94.3
②	(ア)	地域の人々の生産や販売	○		96.0
	(イ)		○		96.7
	(ウ)		○		95.2
	(エ)		○		96.0
	(2)		○		97.4
③	(1)	飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理		○	84.2
	(イ)			○	80.9
	(ウ)			○	75.2
	(エ)			○	85.5
	(2)		○		74.3

対 応 グ ラ フ 番 号	問 題 番 号	問 題 の 内 容	評 価 の 観 点		設 問 毎 正 答 率 [%]
			社 会 的 な 思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	観 察 ・ 資 料 活 用 の 技 能	
④	(ア)	県(都、道、府)の特色		○	93.2
	(イ)			○	78.7
	(ウ)			○	75.2
	(エ)			○	57.6
	(オ)			○	60.4
	(カ)			○	67.5
	(1)			○	87.0
⑤	(ア)	飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理		○	71.2
	(イ)			○	89.7
	(ウ)			○	73.4
	(3)			○	82.9
⑥	(1)	災害及び事故の防止		○	43.3
⑦	(1)	古くから残る暮らしにかかわる道具		○	91.4
	(ア)			○	76.5
	(イ)			○	85.9
	(ウ)			○	75.8
⑧	(ア)	県(都、道、府)の特色		○	65.1
	(イ)			○	84.8
	(ウ)			○	47.7
	(エ)			○	80.9
	(2)			○	80.9

観点別にみた正答率

観点	設問数	平均正答率	
社会的な思考・判断・表現	7問	76.6%	76.6
観察・資料活用の技能	13問	82.0%	82.0
社会的事象についての知識・理解	15問	76.8%	76.8

・観点別の平均正答率については、「社会的な思考・判断・表現」（7設問）が76.6%、「観察・資料活用の技能」（13設問）が82.0%、「社会的事象についての知識・理解」（15設問）が76.8%と概ね良好な結果となっている。

・「社会的な思考・判断・表現」の各設問について平均正答率を見ると、『地域の人々の生産や販売』に関する問題が97.4%と多くの児童に理解されている（問二（2））。一方、『災害及び事故の防止』に関する問題では正答率が43.3%となっており、各種資料を読み取り、取り出した事実を再構築して表現することを苦手とする児童が多いことがわかる（問六）。

・「観察・資料活用の技能」については、『地域の人々の生産や販売』が9割以上と高い正答率になっている（問二（1））。一方、『県（都、道、府）の特色』に関する問題の一部では正答率が57.6%となっており、自分たちの住んでいる県の地形や産業などの特色を理解することを苦手とする児童がいることがわかる。（問四（エ））。

・「社会的事象についての知識・理解」については、『古くから残る暮らしにかかわる道具』に関する問題が91.4%と高い正答率になっている（問七（1））。一方、『方位・主な地図記号』に関する問題の一部では正答率が49.0%となっており、方位や主な地図記号について理解・活用することを苦手とする児童が多いことがわかる。（問一（1））。

観点別にみた指導の工夫・改善

社会的な思考・判断・表現について	○地域の消防署や消防本部を見学して、そこにある様々な施設・設備を観察したり、そこで働く人々から聞き取り調査を行ったりして、災害防止のための日常の取組、緊急事態に対する備え、災害発生時の組織的な対処などについて調べる活動が考えられます。その際には、見学先の関係機関に見学、調査の意図を的確に伝えるなど、事前の打合せをしっかりと行うことが必要です。（問六）
観察・資料活用の技能について	○地域における地形や気候、産業等の様子について調査するとともに、集めた資料を効果的に活用し、地域の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てる学習につなげていきましょう。（問四）
社会的事象についての知識・理解について	○社会科の学習以外の場面でも、日常的に地図帳で各都道府県の名称と位置を確認する習慣を身に付けさせる指導が効果的です。都道府県を表す地図を常に各教室に掲示し、その活用を図るなど、学習環境を工夫した継続的指導に努めましょう。（問八）

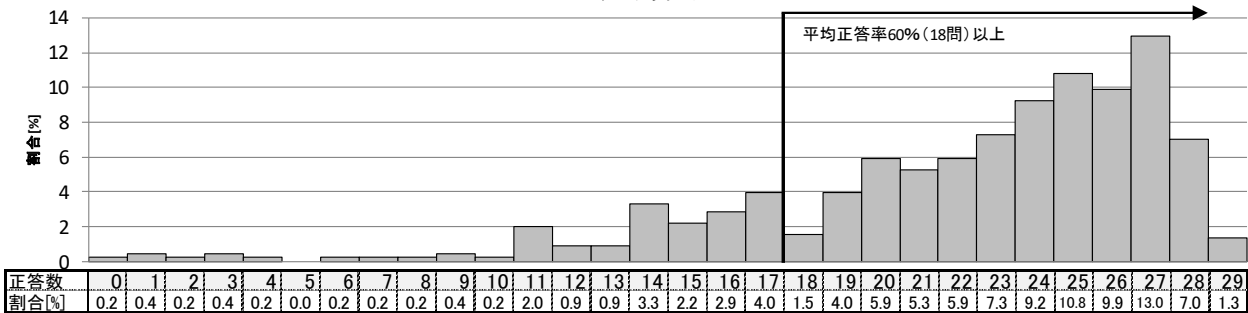
算数

調査児童数	455人
平均正答数	22.1問 /29問
平均正答率	76.3%
中央値	24問
最頻値	27問

全体的な結果について

- 算数は、調査児童数 455 人にて実施をした。その結果、平均正答数 22.1 問、平均正答率が 76.3%、平均正答率が 60%以上の児童は全体の 8 割以上を占めている。
- 正答率分布をみると、全体的に右寄りの山形となっていることから、児童に学習内容がおおむね定着していると考えられる。

正答率分布



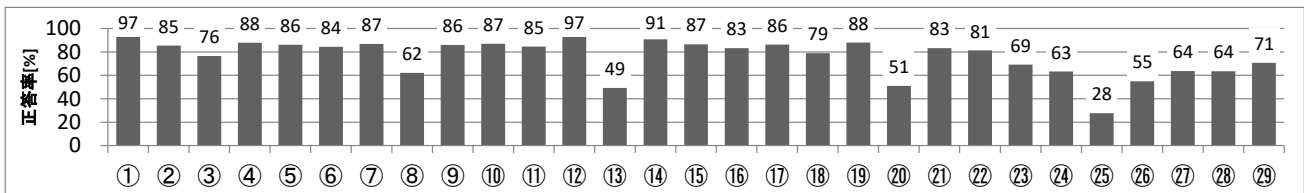
正答率が 80%以上の設問

- 問一（1）分数の加法や問三（1）伴って変わる二つの数量の関係は平均正答率が 9 割を超え良好な結果となっている。
- 問四 角の大きさも平均正答率が 8 割以上を占めており、全体的に良好な結果となっている。

正答率が 40%未満の設問

- 問七（1）面積の単位と測定では平均正答率が 27.7%となっており、多くの児童が苦手としていることがわかる。

各設問における平均正答率



対応番号	グラフ	問題番号	問題の内容	評価の観点			設問毎正答率 [%]	
				数学的な考え方	数量や図形などについての技能	数量や図形などについての知識・理解		
①	問一	(1)	分数の加法		○		96.7	
②		(2)	小数の減法		○		85.5	
③		(3)	小数の乗法		○		76.5	
④		(4)	整数の除法		○		87.9	
⑤		(5)	四則の混合した式		○		86.2	
⑥	問二	(1)	四則に関して成り立つ性質			○	84.4	
⑦		(2)	整数の表し方			○	86.8	
⑧		(3)	概数と四捨五入		○		62.2	
⑨		(4)	式	整数の除法	○			85.9
⑩			答え		○			87.0
⑪	(5)	そろばん		○		84.6		
⑫	問三	(1)	伴って変わる二つの数量の関係		○		96.7	
⑬		(2)	式		○		49.2	
⑭			式	数量の関係を表す式		○		90.8
⑭			(3)			○		
⑮	問四	(1)			○		86.6	
⑯		(2)	角の大きさ		○		83.3	
⑰	問五	(1)	(ア) 伴って変わる二つの数量の関係		○		86.4	
⑱		(イ)			○		78.9	
⑳		(エ)		資料の分類整理		○		88.1
㉑	問六	(1)	(ア) 直方体の展開図		○		51.0	
㉒		(イ)			○		83.3	
㉓	問七	(1)	(ア) 平行な辺		○		81.3	
㉔		(イ)		(ア) 四角形の対角線		○		69.2
㉕	問八	(1)	(1) 面積の単位と測定		○		63.3	
㉖		(2)			○		27.7	
㉗	問九	(3)	(ア) ① 正方形、長方形の面積の求め方		○		54.9	
㉘				②		○		63.7
㉙				③		○		63.5
㉚				(イ)		○		70.8

観点別にみた正答率

観点	設問数	平均正答率	
数学的な考え方	8問	65.9%	65.9
数量や図形などについての技能	16問	80.9%	80.9
数量や図形などについての知識・理解	5問	78.4%	78.4

・観点別の平均正答率については、「数学的な考え方」(8設問)が65.9%、「数量や図形などについての技能」(16設問)が80.9%、「数量や図形などについての知識・理解」(5設問)が78.4%と概ね良好な結果となっている。

・「数学的な考え方」の各設問について平均正答率を見ると、『整数の除法』に関する問題が87.9%と多くの児童に理解されている(問二(4))。一方、『面積の単位と測定』に関する問題では27.7%となっており、面積についての感覚を身に付けることを苦手とする児童が多いことがわかる

(問七(1))。

・「数量や図形などについての技能」については、『伴って変わる二つの数量の関係』が96.7%と高い正答率になっている(問三(1))。一方、『面積の単位と測定』については正答率が54.9%となっており、面積を単位面積のいくつ分ととらえることを苦手とする児童が多いことがわかる。(問七(2))。

・「数量や図形などについての知識・理解」については、『資料の分類整理』に関する問題が88.1%と高い正答率になっている(問五(2)(ア))。一方、『四角形の対角線』に関する問題では正答率が63.3%となっており、四角形の対角線の意味についての理解を苦手とする児童が多いことがわかる。(問六(2)(イ))。

観点別にみた指導の工夫・改善

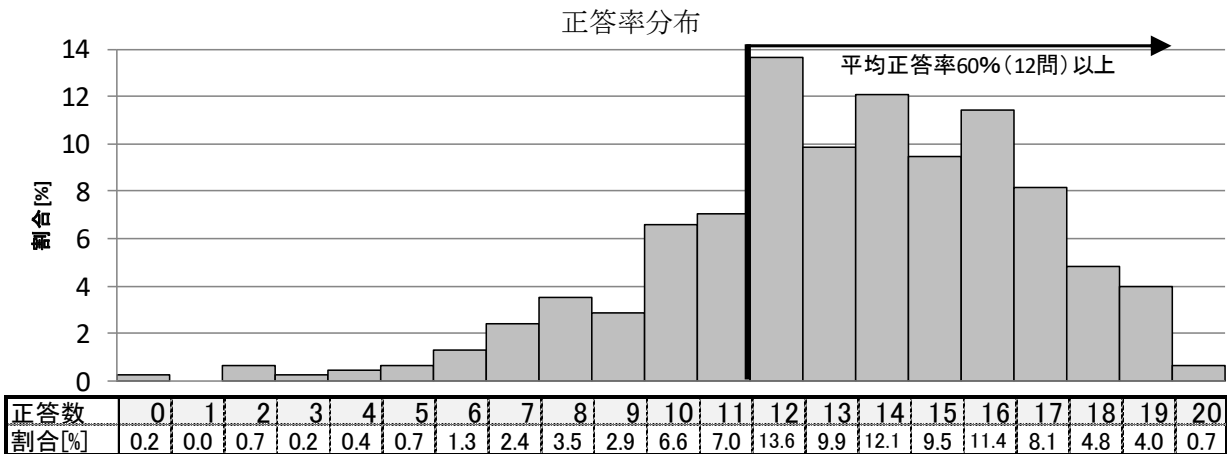
数学的な考え方について	○計算の上では $1\text{ m}^2=10000\text{ cm}^2$ であると分かっているが、長さの単位換算での経験から類推して、 $1\text{ m}^2=100\text{ cm}^2$ と誤ってしまう児童もいます。これは 100 cm^2 という面積の大きさについての感覚が身につかず、 1 m^2 という面積の意味が理解できていなければ防げることです。そこで、身の回りにある折り紙、机の面、教室の床、花壇、体育館など正方形や長方形の面積を実際に調べる活動が有効になります。活動に取り組むときは、児童の実態に合わせて目的意識をもたせ、たとえば教室と図書館の面積の違いを調べるなどを通して、面積の学習が日常生活に役立つものであることを実感させるようにしましょう。(問七(1))
数量や図形などについての技能について	○身の回りにあるものの面積を実際に測定する活動を取り入れ、面積を求めたり、様々な場面で単位を用いたりすることを通して、単位の大きさや面積の求め方について、実感を伴ってより確実に理解が深められるようにしましょう。(問七(2))
数量や図形などについての知識・理解について	○実際に四角形やその対角線をかき活動を通して、辺の長さや対角線の性質を調べたり、平行四辺形、ひし形、台形で平面を敷き詰めたときに同じ大きさの角や平行線の性質に気づいたりするなど、実感的な理解を深める指導をしましょう。(問六(2))

理科

調査児童数	455人
平均正答数	13.3問 /20問
平均正答率	66.4%
中央値	14問
最頻値	12問

全体的な結果について

- 理科は、調査児童数 455 人にて実施をした。その結果、平均正答数 13.3 問、平均正答率が 66.4%、平均正答率が 60%以上の児童は全体の 7 割以上を占めている。
- 正答率分布をみると、全体的に右寄りの山形となっていることから、児童に学習内容がおおむね定着していると考えられる。



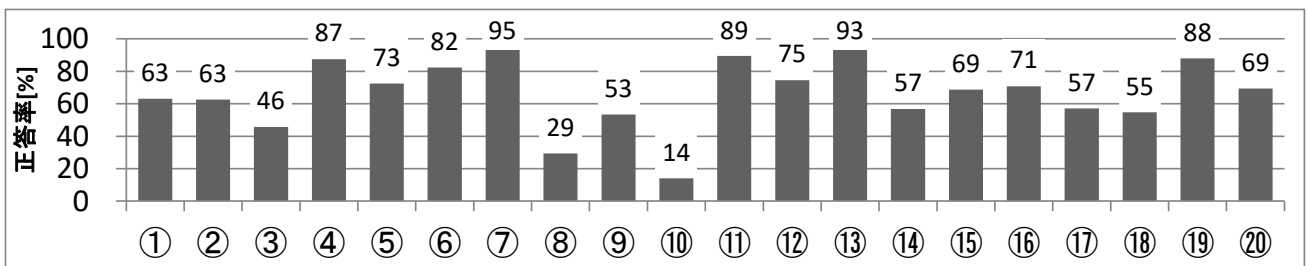
正答率が 80%以上の設問

- 問三（2）星の動きは平均正答率が 95.2%、問五（2）温度計の読み方は平均正答率が 93.2%と良好な結果となっている。

正答率が 40%未満の設問

- 問三（3）方位磁針の使い方は平均正答率が 29.5%、問四（2）乾電池のつなぎ方と電流の強さは平均正答率が 14.1%と低く、多くの児童が苦手としていることがわかる。

各設問における平均正答率



対応グラフ番号	問題番号	問題の内容	評価の観点			設問毎正答率 [%]	
			科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解		
① 問一	(1)	動物の活動や植物の成長と季節の関係			○	63.1	
	(2)	こん虫の体のつくり			○	62.6	
	(3)	虫眼鏡の使い方		○		45.7	
④ 問二	(1)	人の体のつくりと運動(関節)			○	87.5	
	(2)	人の体のつくりと運動(筋肉)	○			72.5	
⑥ 問三	(1)	月の動き			○	82.4	
	(2)	星の動き			○	95.2	
⑧ 問三	(3)	方位磁針の使い方		○		29.5	
	⑨ 問四	(1)	乾電池のつなぎ方と電気の働き			○	53.4
		(2)	乾電池のつなぎ方と電流の強さ	○			14.1
⑩	(3)	光電池の働き	○			89.5	
⑫ 問五	(1)	水の蒸発	○			74.5	
	(2)	温度計の読み方			○	93.2	
⑭ 問六	(3)	天気による1日の気温の変化のようす(グラフの読み取り)			○	56.7	
	(1)	空気の性質、水の性質	○			68.8	
⑯ 問七	(2)	空気の性質(考察)			○	70.8	
	(1)	温度と空気の体積の関係	○			57.1	
⑰ 問八	(2)	温度と水の体積の関係			○	54.7	
	(1)	金属の温まり方			○	87.9	
⑳	(2)	空気の温まり方			○	69.5	

観点別にみた正答率

観点	設問数	平均正答率	
科学的な思考・表現	7問	61.9%	61.9
観察・実験の技能	3問	56.1%	56.1
自然事象についての知識・理解	10問	72.7%	72.7

・観点別の平均正答率については、「科学的な思考・表現」(7設問)が61.9%、「観察・実験の技能」(3設問)が56.1%、「自然事象についての知識・理解」(10設問)が72.7%と一部の問題を除き概ね良好な結果となっている。

・「科学的な思考・表現」の各設問について平均正答率を見ると、『光電池の働き』に関する問題が89.5%と多くの児童に理解されている(問四(3))。一方、『乾電池のつなぎ方と電流の強さ』に関する問題では14.1%となっ

ており、直列つなぎにするとモーターが速く回ることを、検流計を使って電流の強さと関連付けることへの理解が不足している児童が多いことがわかる(問四(2))。

・「観察・実験の技能」については、『温度計の読み方』に関する問題が93.2%と多くの児童に理解されている(問五(2))。一方、『方位磁針の使い方』に関する問題では正答率が29.5%となっており、方位磁針の操作方法への理解が不足している児童が多いことがわかる(問三(3))。

・「自然事象についての知識・理解」については、『星の動き』に関する問題が95.2%と高い正答率になっている(問三(2))。一方、『乾電池のつなぎ方と電気の働き』に関する問題では正答率が53.4%となっており、乾電池の数やつなぎ方によって回路に流れる電流の向きや強さの違いがあることへの理解が不足している児童が多いことがわかる(問四(1))。

観点別にみた指導の工夫・改善

科学的な思考・表現について	○モーター以外にも、豆電球などを使って電流の強さによって起こる現象の違いを理解したり、目的に合った回路のつなぎ方を考えて、ものづくりをしたりすることも考えられます。(問四(2))
観察・実験の技能について	○星などを観察するとき方位と高度から目的の星を確認することが考えられます。(問三(3))
自然事象についての知識・理解について	○電気用図記号(回路図記号)を使うことによって、電池の向きや数がわかりやすくなり、電流の流れが理解しやすくなります。直列つなぎでは電池の数によってモーターの回る速さが変わることを理解が深まります。(問四(1))